

5 / 14 『神の子ども、自由の子ども』（ガラテヤ 4 : 21～31）

長谷川 望 牧師

*母の日の起源はアメリカの教会。熱心なキリスト信者であり、様々な社会的働きをしていたアン・ジャブスという女性が41歳で亡くなった。その子供のアンナが母に敬意を表してカーネーションを送ったことから始まる。

*人類の母は「エバ」であるが。パウロは二人の母の比喻を用いて、救いは「律法を行うことによって得られるのではなく、イエス・キリストを信じる信仰によってのみ得られる」ということを説明する。「奴隷の子」は、肉によって生まれたユダヤ主義のユダヤ人クリスチャンを示し、ハガル、イシマエル、シナイ山（律法が与えられた場所）、今のエルサレム（律法を厳格に守ろうとしている本山）という名が同じグループに入る。「自由の子」は霊によって生まれたクリスチャンを示し、サラ、イサク、約束の子、上のエルサレム（キリストと共にいる天の御国）という名が同じグループに入る。「そのとき、サラは、エジプトの女ハガルがアブラハムに産んだ子が、自分の子イサクをからかっているのを見た。それでアブラハムに言った。「このはしためを、その子といっしょに追い出してください。このはしための子は、私の子イサクといっしょに跡取りになるべきではありません。」このことは、自分の子に関することなので、アブラハムは、非常に悩んだ。すると、神はアブラハムに仰せられた。「その少年と、あなたのはしためのことで、悩んではならない。サラがあなたに言うことはみな、言うとおりに聞き入れなさい。イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるからだ。しかしはしための子も、わたしは一つの国民としよう。彼もあなたの子だから。」（創世記 21 : 9～13）

イスラエルの母であるアブラハムは「奴隷の子」ハガルからイシマエル、「自由の子」からイサクを生んだ。イサクが神の契約の子として正統となるが、アブラハム・サラの許を去っていったイシマエルにも神は祝福を与えられた。アブラハムはアラブの祖でもあるゆえに、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教は同じ父を持つ兄弟であるといえる。

*罪が赦され、永遠のいのちが約束されるという「救い」は、ただイエス・キリストを信じる信仰による。クリスチャンは「神の子ども」とされ、神の国を相続することができる。「奴隷の子ども」は「、、しなければならぬ」という「律法主義」や「行い」にとらわれていて自由がない。いつも不安と恐れと義務感にさいなまれている。「こういうわけで、兄弟たちよ。私たちは奴隷の女の子どもではなく、自由の女の子どもです。」（ガラテヤ4 : 31）